大阪人権博物館の休館

いまから 2 年ほど前、前川喜平さん「トークライブ」がリバティおおさか大ホールであり参加した。定員 270 名の会場は一杯だったと思う。その前川さんが東京新聞 5 月 31 日「本音のコラム」で標題について書いている。

大阪人権博物館（通称リバティおおさか。以下「リバティ」）が 5 月 31 日限りで休館する。1985 年大阪人権歴史資料館として開館以来、日本で唯一の総合人権博物館として 170 万人の来館者を迎えてきた。2017 年の夜間中学生展は僕も見学に行った。

リバティは、大阪府、大阪市、部落解放同盟大阪府連などが拠出した公益財団法人だ。所在地は市有地だが、もともと地元被差別部落の住民が大阪市に寄付した土地に建てた旧栄小学校の跡地だ。リバティの建物はその校舎を模している。

リバティの休館に至る因縁は、08 年橋下徹大阪府知事（当時）が展示内容の変更を求めたことに始まる。リバティは府教委・市教委と協議の上展示内容を改変したが、12 年に橋下大阪市長（当時）が「僕の考えに合わない」と非難。「公益性がない」として 13 年度から市の補助金を打ち切った。14 年には土地の無償貸与をやめ、年間 2700 万円の地代を要求。さらに 15 年には、土地の明け渡しなどを求めて提訴した。それから 5 年、リバティはついに力尽き、建物を撤去し土地を明け渡す和解に応じた。22 年の再出発を期しているが、具体的なめどは立っていない。

大阪人が世界に誇るべき人権の拠点が、大阪市によってつぶされた。大阪人の皆さん、本当にこれでいいのですか？

写真下は別の機会にリバティおおさかを訪ねたときに撮ったものだ。水俣病コーナーには、「水俣病に 50 年向き合った原田正純医師」の大きな写真が展示されていた。大阪の地で、久しぶりに先生にお会いできたようで、なんだか嬉しくなった。

「人工呼吸器をつけて生きる」コーナーには、おもわず足をとめた。何年か前に来たときも展示されていたと思うが、あまり記憶に残っていない。バクバクの会の皆さんの写真が並び、「学校での生活」「地域の中で」とつづる。名古屋で人工呼吸器をつけ地域の学校で元気に学ぶ、林京香さんと出会ってから、障がいをもつ子どもと家族らに関心を向けるようになった。

（2020年6月2日）